

## 【施策12】 自然に親しみ、自然を尊重するところをはぐくみます

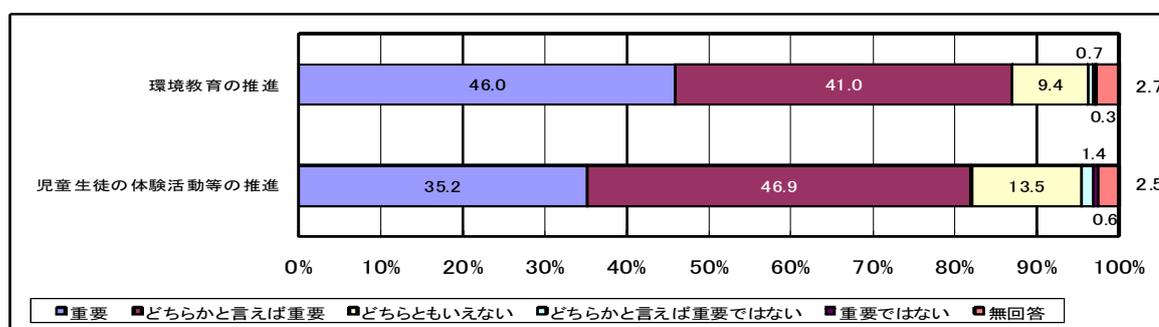
### 【施策の現状】

都市化や子どもの遊びの多様化など、社会の変化を背景として、子どもたちが生活の中で自然と触れ合う機会は減少しています。また、地球温暖化が深刻化する中で、環境を保護するという観点から、子どもたちが自然環境について理解を深める必要性は高まっています。

本県では、生物指標を用いて河川の水質状況調査を行う「せせらぎスクール<sup>80</sup>」や二酸化炭素排出量の削減目標を定める「福島議定書<sup>81</sup>」について、各学校が積極的に取り組んでいます。

県民アンケートでは、「環境教育の推進」や「児童生徒の体験活動等の推進」について、「どちらかと言えば」も含めて重要であると答えた県民の割合は、それぞれ87.0%、82.1%であり、県民が特に重視しているという結果が出ています。

### 〔各施策の今後の重要性について〕



### 〔東日本大震災・原子力災害を経て〕

原子力災害の経験を踏まえ、本県は、環境との共生が図られた社会づくりを推進し、原子力に依存しない社会を目指すこととしています。

一方で、震災等の影響で、子どもたちが自然に接し、さまざまな体験をする機会の減少が懸念されています。

### 【基本的方向性】

- 子どもたちが、自然と触れ合う体験を通して、自然やいのちの尊さに気づき豊かな感性を育むことができるよう、自然体験活動を進めます。
- 子どもたちが、地球温暖化問題への理解を深めるとともに、本県の自然環境を理解し、環境の保護に向けて主体的に考え、行動できるよう、発達の段階に応じた環境教育を推進するとともに、実践的な取組を進めます。

<sup>80</sup> せせらぎスクール……環境省が市民に呼びかけ実施している生物指標を用いた河川の水質状況調査。本県では、「せせらぎスクール」と称している。

<sup>81</sup> 福島議定書……省エネルギーのために県が実施している施策。電気及び水道の使用による二酸化炭素排出量の削減目標を定め、実践する取組み。各学校や事業所等が知事と締結して取り組む。

## 〔東日本大震災・原子力災害を経て〕

- 原子力に依存しない社会を目指して、環境との共生が図られた社会づくりを推進するため、児童生徒にエネルギーや環境について考えさせる学習を充実します。
- また、東日本大震災・原子力災害により減少した自然体験活動等の促進を図ります。

## 【今後の取組】

## ◇ 豊かな自然に親しむ体験活動の推進

自然の中での交流活動や集団宿泊活動、総合的な学習の時間等を活用した野外活動などにより自然体験活動の充実を図ります。

また、学習目的に応じた自然体験活動プログラムの提供や、利用者が安全・安心に集団宿泊活動が行えるよう自然の家の充実を図ります。

◇ 低炭素<sup>10</sup>・循環型社会<sup>82</sup>に対応した環境教育の推進

環境教育に関するさまざまな実践事例を活用し、教科や総合的な学習の時間等において郷土の自然や身近な環境問題、地域のエネルギー資源を活用した再生可能エネルギー<sup>11</sup>に関する教育を充実させ、学校が「せせらぎスクール<sup>80</sup>」や「福島議定書<sup>81</sup>」などの環境保全や省エネルギーに関する実践的な事業に積極的に取り組むことを促すなど、発達の段階に応じた環境教育を推進します。

## 〔施策 1 2 指標〕

指標名	現況値	目標値	備考
「せせらぎスクール」への延べ参加者数（公立小・中・高等学校）	H22年度 5,562人	H32年度 増加を目指す	モニタリング指標
福島議定書の参加学校数の割合（公立幼・小・中・高・特別支援学校 <sup>16</sup> ）	H24年度 63.0% （参考 H22年度 71.0%）	H32年度 上昇を目指す	モニタリング指標

<sup>10</sup> 低炭素社会…… 8 ページ参照。

<sup>11</sup> 再生可能エネルギー…… 8 ページ参照。

<sup>16</sup> 特別支援学校…… 17 ページ参照。

<sup>80</sup> せせらぎスクール…… 57 ページ参照。

<sup>81</sup> 福島議定書…… 57 ページ参照。

<sup>82</sup> 循環型社会……狭義には、廃棄物の発生を抑制し、再使用・リサイクルを行い、廃棄量を少なくし資源として循環利用する社会。広義には、自然における適正な物質循環を可能にする人間社会の在り方。